

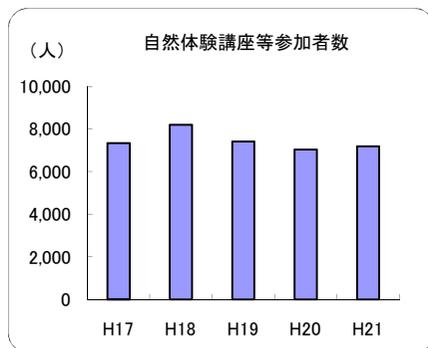
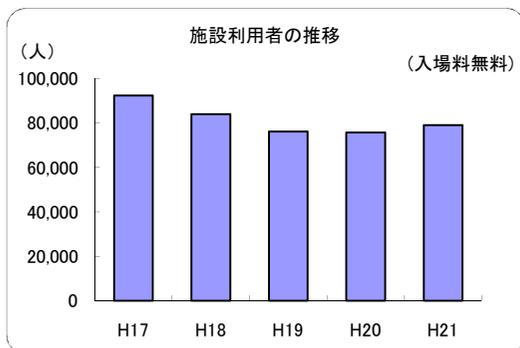
～海の素敵発見館～

福井県海浜自然センター

所在地	三方上中郡若狭町世久見18-2(食見海岸)		
設置年月日	平成11年7月20日		
施設の種類	展示・体験施設	施設管理主体	県
設置の目的	人と自然が共生したやすらぎある県民生活の実現に向け、より一層自然への理解を深めていただくために、本県の豊かな海を知り、体験していただくための施設です。学習、体験、情報提供などの機能を備えており、県民の皆様の自然保護意識の高揚を目的としています。		
概要(構造、面積、主な機能)	・鉄筋コンクリート造、地上2階 延2,122㎡ ・エントランスホール・体験学習室・スノーケル体験施設・展示室・マリンホール(3Dシアター)・海のライブラリー(授乳室あり)・展望デッキ		
職員数	職員5人 非常勤嘱託1人 アルバイト1人 計7人		

利用状況 ※自然体験講座等参加者数は入館者数の内数

	H17	H18	H19	H20	H21
入館者数(人)	92,393	83,997	76,138	75,653	79,050
自然体験講座等参加者数(人)	7,338	8,195	7,413	7,044	7,186



利用状況の推移
平成21年度は、約7万9千人の利用があり、減少傾向であったものがやや持ち直しました。県内外の小・中・高等学校の自然体験研修や遠足等の団体利用、大型クラゲ、三方湖のたたき網漁で捕れた巨大ゴイ、地元の定置網で混獲されたウミガメのはく製等の企画展示などの積極的な展開によるものと考えています。
自然体験講座は、開催当日の天候により中止やキャンセルがあるため参加者数が若干減少しましたが、申込みは安定しています。また県内外の小中学校等の課外活動による団体利用や講座依頼数も安定しており、団体利用の全体数はやや増加しました。
開館から10年が経過し、センターの存在がある程度浸透してきたものと考えています。

施設の特徴

本県唯一の海域公園(三方海域公園)や若狭湾国定公園の特徴であるリアス式海岸の美しさ、磯辺の生物も観察できる近畿自然歩道を周辺に有し、スノーケリングを始めとする自然体験や、施設内では若狭の海の歴史や魚の展示、魚にえさを与えたり、直接触れられる体験など本県の豊かな海を実体験できる施設として大変好評です。



各種事業の開催

①自然保護思想の普及・啓発のため自然教室や観察会を開催しています。

- ・スノーケリング
- ・磯観察
- ・海藻おしば
- ・野鳥観察
- ・魚観察会



②展示事業

海の自然環境についての情報の提供と海を疑似体験できる展示を提供しています。

- ・ふれあい水槽
- ・リアルタイムスコープ
- ・若狭のくらし
- ・マリンホール



③研修養成事業

海の自然観察の指導者となる人材の育成のため、スノーケル指導者養成講座等を開催しています。

④調査研究事業

周辺の自然環境調査を実施し観察会等に活用しています。

⑤資料収集事業

海の自然に関する標本や文献等、展示学習資料の収集を行っています。

海浜自然センターのホームページ

<http://www.fcnc.jp/>

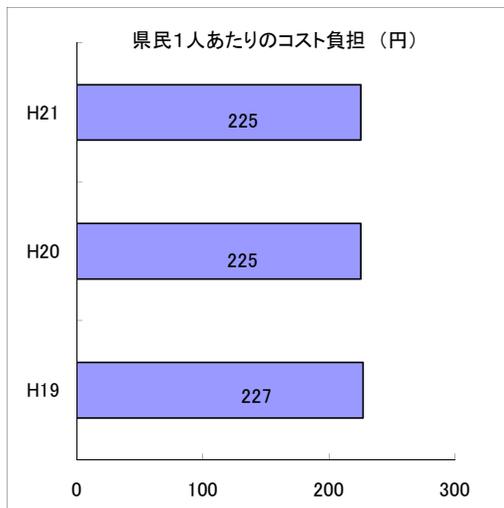
平成21年度の特徴について

事業実績
・県内5箇所での出張展示や「甚大な漁業被害をもたらしている大型クラゲ」「海の宝石、海の妖精とも呼ばれているウミウシ」「海の自然の指標となる海藻類から環境を考える海藻おしば」「寅年にちなんだトラフグ」「たたき網漁で捕れた巨大ゴイ」「福井の海にやってくるウミガメ」の企画展示を行うなど積極的に情報発信を行いました。
・外来魚の密放流が問題となっている農業用ため池において、昨年度に引き続きモデル的に駆除作業を行ったほか、自主的な駆除を行う地区に資機材を貸し出しました。
・子供連れの来館者の方々に海への親しみを持っていただくため、水槽の魚を観察しながら塗り絵を楽しんでいただける「塗り絵コーナー」を設けており、非常に好評を得ています。
・21年度から3か年の計画で、三方五湖の水辺生態系の再生に係る研究事業を東京大学および福井県立大学と共同で行っています。

海浜自然センター(2/2)

行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	51,931	28.4%	94.3%
	退職給与引当金繰入	55	0.0%	100.0%
	賞与引当金繰入	2,546	1.4%	100.0%
	計	54,532	29.8%	94.6%
物にかかるコスト	物件費	40,882	22.4%	115.8%
	維持補修費	6,374	3.5%	210.9%
	減価償却費	67,761	37.0%	100.0%
	計	115,017	62.9%	108.4%
その他	支払利息	12,671	6.9%	66.3%
	その他	678	0.4%	73.4%
	計	13,349	7.3%	66.7%
合計		182,898	100.0%	99.5%
収入	利用料等収入	386	0.2%	7720.0%
	一般財源	182,512	99.8%	99.3%

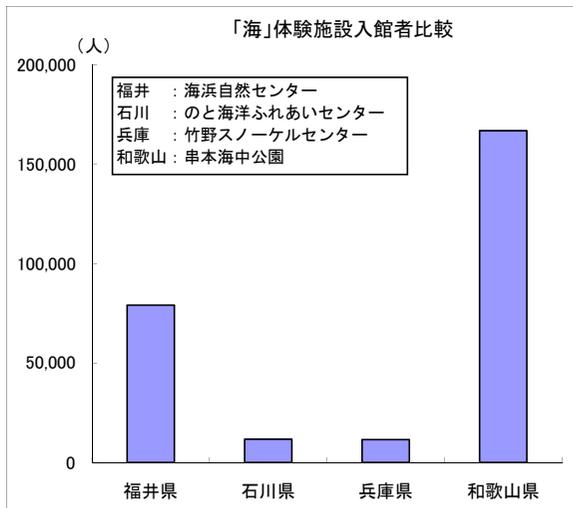


バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	1,016,959	93.8%	固定負債	697,555	89.8%
うち建物・設備	1,015,065	93.8%	うち起債残高	658,620	88.8%
			うち退職手当引当金	38,935	110.7%
投資等	0	-	流動負債	85,746	94.9%
流動資産	0	-	純資産	233,658	107.5%
計	1,016,959	93.8%	計	1,016,959	93.8%

主な指標 (単位: %、円/人)

	H21	H20	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	1,256	1,335	94.1%
県民1人あたり将来負担額	862	956	90.1%
世代間負担率	23.0	20.0	114.9%



バランスシート、行政コスト計算書の特色	<p>平成21年度の行政コスト、県民1人あたりのコストとも前年度とほぼ同水準になっています。</p> <p>物件費については、21年度から始まった三方五湖水辺生態系再生研究事業の経費として約880万円の増額となり、全体として約550万円の増額となっています。維持修繕費のうち修繕費は庁舎関連のものです。これは、海岸に隣接し潮風にさらされているために年数の割には塩害で施設が傷みやすく、また建物内部も水槽維持のために海水を扱っており、湿気が多いために設備の修繕が増えています。21年度には給湯用ボイラーと3D映像システムの更新を約480万円で行いましたが、大規模な修繕が年々増加する傾向にあります。</p> <p>建設にあたって約14億円の起債借入を行っており、年間の償還額は83百万円になります。この結果、県民1人あたり将来負担額が高水準にあり、世代間負担率が低水準(後世代への負担が大きい)になっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・展示事業 (海の自然環境についての情報の提供と海を疑似体験できる展示を提供) ・自然体験講座、研修養成事業【H22予算額:約370万円】 (自然保護思想の啓発のための講座・観察会を開催、自然観察指導者を育成) ・調査研究、資料収集 (三方五湖水辺生態系再生研究に係る東京大学、福井県立大学との共同研究、自然環境調査、標本・映像等の収集・保存)
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保護、生物多様性保全が世界的な課題となる中、当該業務の一端を担う当センターの役割は大きくなっていますが、展示施設が10年を経て機器の老朽化や陳腐化、海水による腐食が進んでいることから、更新が必要になっています。 ・より魅力的な施設にするために、体験型の講座や展示の充実が必要です。
今後の事業方針取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・海の自然保護の拠点施設として、事業内容の充実を図ります。 ・地元観光協会、近隣施設、エコツーリズム推進団体等との連携を強化し、出張展示会の開催や、県内外の小中学校の遠足・課外活動等の誘致に取り組みます。 ・何度も訪れたいくなる施設を目指し、随時受入できる体験プログラムの開発と受入れ体制の整備、新鮮な魅力あるイベントの開催など、工夫を凝らした運営に努めます。